

12月定例教育委員会議事録

1 日 時 令和4年12月20日（火）
午前10時40分から午前11時23分

2 場 所 宗像市役所 本館3階 301会議室

3 出席委員	委員	石丸哲史
	委員	大庭多美枝
	委員	脇田哲郎
	委員	野上順子
	教育長	高宮史郎

4 その他の出席者 教育子ども部長徳永淳、教育子ども部子どもグローバル人材育成担当部長早川ちさと、教育子ども部主幹指導主事佐々木真理子、教育政策課長立花裕二、教育政策課指導主事名切太志、教育政策課指導主事瀧口博章、教育政策課指導主事末崎浩嗣、学校管理課長高倉庸輔、学校管理課企画主査荒牧直子、子ども育成課主幹兼子ども育成係長本田康浩、図書課長中野道子、文化スポーツ課長久保謙司、文化スポーツ課参事南宏和、教育政策課政策係長福永貴志、教育政策課政策係主任主事大内田賢美
※傍聴 なし

5 イベント周知

<子ども育成課>

1 令和4年度家庭教育学級「おやこで並んでメディアを楽しもう！」

<文化スポーツ課>

1 1月の宗像アートギャラリー「体験！昔遊び、伝承遊び」

<学校管理課>

1 宗像産食材を使用した卵製品の提供

6 報告事項

<文化スポーツ課>

1 宗像市はたちのつどい（旧成人式）の来賓について

<学校管理課>

1 宗像市立小学校、中学校及び義務教育学校における学校給食費について

<図書課>

1 福岡教育大学・図書課連携事業報告

2 読書月間報告

<教育政策課>

- 1 玄海小・玄海中の校長兼務について
- 2 行政報告について
- 3 後援報告について

7 協議

① 協議事項3 宗像市立学校の部活動改革の方向性について

【教育政策課長】宗像市立学校の部活動改革の方向性についてでございます。総合教育会議の中でもご協議いただきましたが、国が示しております部活動の改革の方向性につきまして、本市としてどのように進めていくべきかというところでご協議をいただきたいと思っております。一番上に掲げておりますけれども、本市の部活動改革の方向性につきましては「持続可能なスポーツ・文化活動と教師の負担軽減を実現できる部活動改革」と掲げ、目標といたしましては令和7年度末には休日の部活動の地域移行を完了させたいというふうに考えております。その中で、下に記載しています4点を令和5年度から令和7年度にかけて重点的に取り組みたいと考えています。まずは休日に教員の方が部活動の指導に携わる必要の無い環境を構築したい。それから2点目でございますけれども、部活動指導を希望する教員の方は引き続き指導を行えるような仕組みを構築していく。それから3点目でございますけれども、生徒の活動の機会を確保するために、休日における地域のスポーツ、それから文化活動の環境整備をしていく。それから生活困窮家庭の支援を行っていくというところでございます。下のところのロードマップ案でございますけれども、前回と大きく変更はございません。宗像市教育委員会、それから市文化スポーツ課、市内の中学校等と連携をとりながら、3年かけて行っていきたいと考えているところでございます。令和5年度、6年度、7年度と記載させていただいておりますけれども、それぞれ①～④という形で宗像市教育委員会としてガイドラインの見直し、兼職兼業制度の見直し、困窮家庭の支援、これは国の基準に準拠する形で行っていきたいというふうに考えているところでございます。それから文化スポーツ課の方では、地域クラブの計画的な創設というところで、地域における受け皿づくりの推進をしていきたいと考えております。下の方に記載しておりますのが、令和4年11月に国から示された総合的なガイドラインというところで、大きく4点示されています。「学校部活動」「新たな地域クラブ活動」「学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備」「大会等の在り方の見直し」というところで国の方からガイドラインが示しておりますので、私どもとしましては、まずは取り組めるところから取り組んでいきたいと考えているところでございます。国が示しているところは大きいところになり、なかなか細かいところまでは示されていないという状況でございますので、現在保護者の方にも再度アンケートを取りながら、こういった形が望ましいのかといったところも含めながら検討していきたいと考えています。説明については以上でございます。

【高宮教育長】ありがとうございます。協議になっておりますので、是非ご意見なりご質問なり出していただけるとありがたいです。まずはご質問はございませんでしょうか。

【野 上 委 員】息子がサッカー部に所属していて、平日は基礎練習、休日土日のどちらかで実践的な練習として各校と練習試合という部活動の在り方だったのですが、休日の部活動が地域に移行されると、そういった他校との練習試合は一切できなくなるということでしょうか。

【教育政策課長】こちらについては、まだまだ決まっていなくてすごく多く、どういった形で進めていこうかと考えているところでございます。実はいろいろな方法がありまして、学校毎に、この学校は全ての部活動を休日は地域の方に見てもらおうという進め方もありますし、部活動の種目ごとに進めていく方法であったりとか、様々な方法がございます。地域移行になれば、あくまでも学校から離れてしまうという形になりますので、例えば練習試合についても、地域クラブと他地域のクラブとで練習試合を組むという形になるのかなど思っております。まだ具体的な方向性が示せておりませんので、非常に苦しいところではあるのですが、今回示している「大会等の在り方の見直し」のところにもあるのですけれども、例えば大会の回数といったところも今後ある程度検討されていきますし、今まで中体連に中学校単位で参加をしていたところに、地域クラブも参加できるように国から示されているところでございます。令和7年度に向けて、色々な動きがあると思っております。種目によって大会運営の形もあると思いますので、そこを見守りながら、一気にはいかないですが、徐々に進めていきたいと考えておりところでございます。

【高 宮 教 育 長】はい、まだまだこれからというところですね。では他にご質問ございませんでしょうか。

【大 庭 委 員】質問というよりは願いのようなものなのですが、負担軽減を目的に休日の指導を希望しない教員と、それなのに実施してくれる教員と2種類に分かれるのがとても気になるんです。保護者に説明の時も、負担軽減の目的というのは外せないと思うんですが、それなのにうちの子の先生はしてくれる、だからあの先生はしてくれないという、全体的な割合も影響してくるんでしょうけれども、それがその先生の教育活動全体のマイナスにならなければ良いなど。かなり願いに近いのですが、これは年数をかけて少しずつしていくところなのかもしれないですが、せっかく頑張っている人が部活動の指導を希望しないというだけで保護者の信頼が得られないというふうにならないように願っています。

【主幹指導主事】ありがとうございます。おっしゃる通りで、アンケートを7月に実施したのですが、休日に練習試合を組んでくださっている先生方でも非常に苦しい状況である、そういった意見も多く聞かれています。ただ委員がおっしゃるように、だからやらないという決断ができなくて、そしてしたとしても理解が得られなくてといった壁は大いに考えられるところですので、丁寧に進めていきたいと思っております。実は先日も保護者あてにアンケートを配付したところでございます。少しずつ中身が具体的にできるように、細かく意見をいただけるように進めては参りますけれども、こう言ってくださる委員の方がいらっしゃることを支えに丁寧にしていきたいと思っております。ありがとうございます。

【大 庭 委 員】必要の無い心配であつたら良いなと願っています。

【教育子ども部長】現場の校長先生からも同じような意見をちょうだいしております。保護者の方は部活動を一生懸命する先生が良い先生という思いがあられる方も多いと思います。

土日に部活動を見ない先生は教育活動全般において熱心じゃないというふうに思われたいようなフォローをしっかりと構築しないといけないと言われておりますので、大庭委員が言われたことは大前提としながら進めていきたいと思います。

【大庭委員】よろしくお願いします。

【石丸委員】そもそもこの動きというのが、教員の負担軽減に端を発して、もしかすると昭和以来の文化というものが終わっちゃうのかな、変わっちゃうのかなと思っています。1つお尋ねしたいのが、部活動という言葉は残るのでしょうか。部活動の地域移行というふうには言われているんですけれども、国の動き等も含めて、これからの動きはどういうふうに捉えたらいいのでしょうか。

【教育政策課長】おっしゃる通り非常に大きな改革でございます。今の部活動というのが指導要綱の中では教育活動外という形で示されているところでございますが、あくまでも実情として部活動が教育的な意義を含めて存在しているところでございます。基本的に平日については今まで通りで、休日について地域でとまらずは移行していこうというところでございます。国の示しているところは、まずは、というところでございますので、ゆくゆくは平日まで行くのではないかなというふうに考えているのですけれども、なかなかそこまでは厳しいのかなと考えています。ですので私どもとしましては、まずは休日の部分、地域の方で見ていただけるかたがいらっしゃるかどうかが、そこも含めて検討しないといけないと考えているところでございます。また、大会に地域のクラブが参加できるというふうになりますと、おそらく競技性を求める方、うまくなりたいたか、そういった方々はそちらに流れるのではないかなという点を少し危惧しておりまして、中学のスポーツ、文化活動につきましては中学で初めて競技をするという方も多ございますので、そういった受け皿も学校の方で整備しなければならないと思っています。一方、競技性を求める方々もいらっしゃるということで、その両立がこれから先非常に難しいのかなと思っていますのでございます。

【石丸委員】教育課程の内なのか外なのかという、そこが一つポイントになりますし、もう一つは地域移行という言葉自体が、校区内で完結できるわけではない部分があるかなと思います。その際に学校単位の部活動という概念が難しくなってくるのではないかなと思います。また受け皿産業が生まれてくるんじゃないかなと思うんですね。そこにまたお金という部分が介在していくと。そこで教育課程の内外という言い方で行くと、教育活動とは全く無縁というわけにはいきませんよ。外というのはあくまで教育課程から見た位置付けなわけだから、勝手に関係ないというわけにはいかないと思いますけれども、そういったところでどうなるのかなと。そこがまだ見えてこないというのが、教育委員として正直懸念しているところです。もう一つ、例えばeスポーツはこれからどのような取扱いになっていくのでしょうか。教育課程内、運動部、文化部、活動という縦の線や横の線という色んな線引きをしている中で、今後線を引くこと自体に意義とか価値とか新たな考え方、そういう意味では先ほど言いましたように、文化変容というところに、負担軽減に端を発して実は、部活動に関する考え方の変容、そこまで動きつつあるんじゃないかなという、大変注視していかなければならないものだと思っています。令和7年度まで一年一年しっかりと見守って、観察

していこうというふうに考えております。

【教育政策課長】委員のおっしゃる通り、受け皿産業のような形もあるのかなと思っておりますし、グローバルアリーナというスポーツの核となる施設もございますし、文化の核には宗像ユリックスという施設もございます。そういったところと連携をとりながら、実施していきたいと思っております。また産業という意味では、部活動では無いですが、プールなど自分で月謝を払って習われているような、ならいごとのような形に、最終的には移行していくのかもしれないなと思っているところでございます。今までの部活動というのはどうしても、野球であればずっと野球というような形であったかと思いますが、複数のスポーツを楽しむ、レクリエーション的な在り方の部活動もあっても良いのではないかなと。今週はこの部活動をするけれど、来週はこっちの教室に行ってみたいなといったところも需要としてはあるのではないかなと思いますので、受け皿づくりについては文化スポーツ課と連携をしながら、様々なスポーツを経験できるような形にできたら良いなと思っているところでです。

【石丸委員】最後に一つ。部活動の多様化という観点からしますと、スポーツ人材、芸術人材を育てることは我が国の責務だと思いますので、従来通り卓越した人材をつくっていかないといけないと思っていますが、文化という広い意味で言いますと、例えば地域の伝統文化も重要なものであるわけですね。ですから、そういった地域の伝統文化に通じる人材育成に向けて勉強していくのもひとつの部活動ではないかと思います。そういう意味ではコミュニティというのが非常に重要になってくるのではないかなと思うんですね。そこでコミュニティ・スクールの意義も出てくるでしょうし、宗像市内の各地域の活性化ということもあるでしょうし、これを機に多様な文化活動というものに子どもたちが接する機会を豊富に与えてあげることも必要ではないかと感じたところでです。以上です。

【脇田委員】常々思っておりますのは、当事者である子どもたちは、石丸委員もおっしゃったように、競技としての強くなりたいという子もいれば、文化とか自分の好きなことを極めたいという子もいるかもしれませんが、そういった調査はされたことはありますか。

【教育政策課長】子どもたちに対するアンケートはざっくりではございますが行っております。現状の部活動の満足度でありますとか、休養日ですね、平日は1日、それから休日は土日のうちどちらかを休みにしてくださいねという形になっていたり、休日の活動については現状どうですかというような内容を聞いておりますけれども、ほぼほぼ満足という回答が多いのが現状でございます。ですので、なかなか満足度の高いものを改革していくというのは非常に厳しいなと思っているところでございます。生徒自身のこういったふうになりたいというところは把握ができておりませんので、そこも含めて今後ニーズを把握していきたいと考えております。

【脇田委員】何に対して満足という結果ですか。

【教育政策課長】部活の活動量ですとか、部活の内容ですね、そういったところについて満足をしているかと。十分満足している、まあまあ満足しているというのが、生徒では約90パーセント、保護者の方では約80パーセントの方が現状のままで満足しているという状況でございます。今回新たに保護者の方にアンケートを行いたいと思っておりますのが、

先生の現状の働き方でございます。平成28年度に文部科学省が出している資料になりますが、中学校ですと7時27分に出勤されて、帰られるのが19時19分ですので、だいたい11時間半くらい学校にいらっしゃるという状況も保護者の方にお知らせをして、こういう状況になっているんだといったところで、ある一定程度のご理解をいただけるような形で徐々に進めていけたらなと思っているところでございます。

【脇田委員】そういう方もいるでしょうけれども、子どもにとって学校というところがどういうところなのか、宗像市の中学校に通っている全ての子どもが本当に満足しているのか、もっと色んなことを追求したいと思っているかもしれないし、地域というものに対して、中学校は今まで切れてきましたよね。部活動が一生懸命すればするほど。そこを地域に伝統文化を学べるとか、そういうものをやってみたいと思うような子どももいるのかもしれないし、いないのかもしれないし、知らないのかもしれないし。もう少し部活動について多面的に、教師の働き方という一面的な捉えじゃなくて、子どもたちにとって部活動は学校の学習以外にどういう意味合いがあるのかということも調べていただいて、そこから必要な部活動の在り方を検討していくことも必要、重要じゃないかなというふうに思いました。

【高宮教育長】ありがとうございます。その他にございますでしょうか。

【教育子ども部長】この地域移行の話というのが、石丸委員からもあったように、まず教員の働き方改革という視点が1つと、子どもが少なくなってきた部活動が成り立たなくなっているというところ、この2点で動き始めているんですね。私どもの方に降りてきて動き出すと、子どもの視点、保護者の視点、そういったところがスタートの時点で入っていなかったというところで、今地域で随分ハレーションが起きていて、先週の報道でもありましたとおり、文科省もスポーツ庁も若干トーンダウンしてきている雰囲気があります。私たちは教員の働き方改革の視点もちろん考えなくてはいけないんですけども、子どもとか、保護者ですね。実際にそこで活動する人、それをサポートする人、あとは学校で部活動ができなくなると地域とかよそのところまで送迎しないといけない、そういった保護者の負担とかかってくるお金も必要になるかもしれない。そういった色んな要素で検討をしなきゃいけないなということで頭を抱えているような状況ではあります。まずは、国の方から示されている令和7年には土日、週末の部活動を地域移行する。それから地域の受け皿をつくる。その2つに向けてこの3年間一生懸命、脇田委員からも言われたように色んな視点を取り入れながら進めていこうというふうに考えているところです。

【高宮教育長】はい、ありがとうございます。ただ今いただきました貴重なご意見をもとに、3年間、1つ1つ具体像を出しながら検討して参りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

8 (11/22定例) 議事録の承認 《承認》

【高宮教育長】本日は、審議事項はございません。

【高宮教育長】次回は、令和5年1月24日火曜日の午前10時40分から304会議

室にて定例教育委員会を開催します。

令和 5 年 / 月 24 日

石丸 哲史

高宮 史郎

